

VI 参加者の感想

◇石崎さとみ(四日市会話パートナーの会)

会話パートナー制度が全国的に広がりつつある中で、個人的にはパートナーのできることに限界を感じながらの参加でした。パートナーとして当事者活動に関わってきたものの、当事者さんの言いたいことがどうしてもわからなくて悲しそうな顔をされることもあり、その度に自分の力の無さに情けない思いをしました。これでは当事者さんの社会参加を支援することなど出来ないのではないか、と焦りのようなものを感じていました。

今回のグループディスカッションでは、同じような思いを抱いている人もいたことがわかりました。それに対して、言葉を介さないコミュニケーションもあるのだ、という意見がありました。時にはうまく通じないことがあっても、わかってあげたいという思いが伝わればいいのではないかと。言葉が出なくても、同じ場所で、一緒に同じ経験をすることで緩やかな関係が生まれて、そばにいたことが心地よいと思ってもらうことも大切なのでは、という人もいました。笑顔が増えたり、言葉が出るようになるのは、そういう心地よい時間を過ごしたことの副産物なのだ、という和音の方のお話もありました。

「私は会話パートナーなんだから、当事者さんにお話をしてもらわなくては」、と気負い過ぎていたのかもしれませんが。無理に話してもらおうとするのではなく、当事者さんの心に寄り添い、穏やかに楽しい時間を一緒に過ごすことが会話パートナーの一番根っこの目的なのだと、改めて原点に戻ることができました。

当事者さんがもっと積極的に社会に関わるためのお手伝いをするために、パートナーには何が出来るのか、というもう一つの問いには答えは出ませんでした。地域の垣根を越えて他のパートナーさんたちの様々な意見を聞くことは、自分の活動や考え方を見直す貴重な機会となりました。ありがとうございました。



◇妻夫木美帆(失語症会話パートナー養成「あんど」)

全国からどんなパートナーさんが来るのだろう、どんな意見が聞けるのかな、私たちの活動は伝えられるかなとワクワクした気持ちと緊張が入り交じって挑んだついででした。

つどいでは、お互いの活動の様子や悩みをディスカッションしたり、スマホ講座で会話補助のヒントを得たりしました。パネルディスカッションでは、全国の取り組みを聞くことができ、パートナーさんだけで組織化、組織のシステム化を図り成り立っている団体や、行政が支援している団体もあると知り驚きました。

私達「あんど」は、小規模ではありますが、身の丈にあった活動をすれば、息の長い団体、支援になると思いますし、私たちらしく失語症の方に支援できる中で、新たな活動が展開できていけば良いと思いました。

和音さんよりメーリングリストの紹介がありましたが、全国のパートナーさんと情報交換ができるのでとても良いツールになると思います。メールを使える環境でない方でも、団体の代表メールなどに届けば、印刷して刊行物として配ることも可能だと思いました。

どこの団体も、支援の仕方が違ってても、どうしたら失語症の人の力になれるのかという思いは一緒だと感じました。私にとってとても貴重な一日となりました。



◇佐々木恵子(NPO法人和音)

私は、4年前脳出血による後遺症で失語症になった夫を理解するため、和音の「失語症会話パートナー養成講座」を受けた。講座終了後ボランティアを続けているのも、今の夫をより深く知りたいという動機からだ。そんな利己的な思いからではない会話パートナーがこんなにも沢山いらして、当事者のこと、自分たちの役割について真剣に討議していることに胸を熱くした。

午前中のグループディスカッションで同じグループになったST歴1年の若い男性が「自分の担当する当事者とのリハビリがうまく進まない。何かヒントはないかとネットで探し求め、このイベントに辿り着き締め切り間際に申し込んだ」と自己紹介で仰った。他の方々も様々な思いを抱いて集まって来たことを知り、自分の現在とこれからの生き方を考えるいい機会になったと思う。残念だったのは同じグループになった方だけとしかお話が出来なかったことだ。最後に簡単な立食の懇親会のようなものがあつたらもっと色々なお話が伺えただろうと思う。それにしてもあのような短時間で盛り沢山のプログラムを用意して下さった主催者の方々に感謝申し上げたいと思う。ありがとうございました。

追伸 想像を絶する程絵が下手なのだが、45分で上手くなろうと意気込んで参加した。やはりそれは無理で、上達にはコツコツ練習するしかない事を改めて学んだ。一日一絵の決心をした。

VII 参加者アンケートの結果

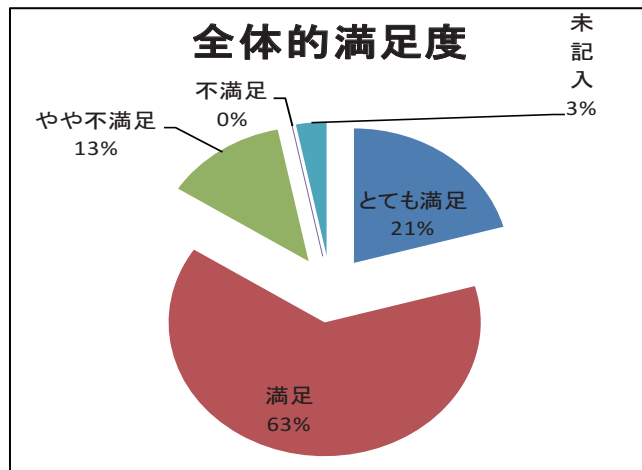
[参加者数 79 名 / アンケート回収数 63]

★前回「全国失語症会話パートナーのつどい」(2009 年)に参加しましたか？

前回参加	初めて	未記入	計
10	43	10	63

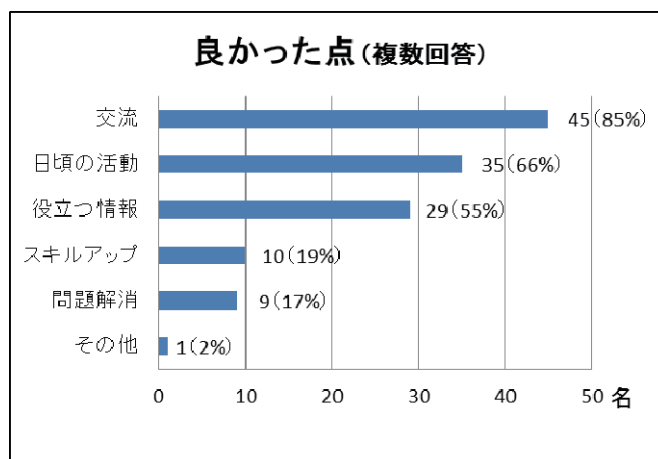
1. 本日のつどいの内容全般について、ご満足いただけましたか。

とても満足	13
満足	40
やや不満足	8
不満足	0
未記入	2
計	63



2. (1で「とても満足」「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。(複数回答可)

役立つ情報が得られた	29
日頃の活動の参考になった	35
スキルアップにつながった	10
他の参加者と交流・情報交換が 図られた	45
抱えていた問題・不安の解消につ ながった	9
その他	1
計	129



自由記述より抜粋

- 会話パートナーはリハビリを担当する人ではない。一緒に居て気持ちの良い関係になることで当事者がおだやかな楽しい時間を過ごせるようになることが第一義と改めて感じた。
- 自分の地域で行っていない活動の話が聞けたので、今後の参考にしたい。
- 他と比較することであり方、不足していること、アイデアを知ることができた。
- 同じような悩みを共感してもらえて少し安心した。
- 先駆的なところも、手探りのところも悩みながら、必要性を感じて工夫しているのを見て、基本に立ち戻る事ができた。

3. (1で「やや不満足」「不満足」を選んだ方)どのような点が良くなかったですか。

(複数回答可)

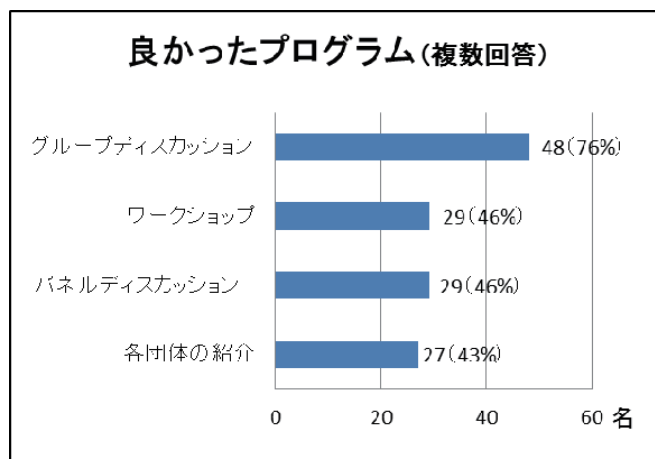
役立つ情報が得られなかった	1
日頃の活動の参考にならなかった	2
スキルアップにつながらなかった	2
他の参加者と交流・情報交換ができなかった	1
抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	1
その他	0
計	7

- どのプログラムにももっと時間がほしかった。
- スマホのワークショップは期待はずれだった。普段の会話でこんな活かし方があるという技が学べると思っていた。
- 漠然としたテーマで思いや悩みを話されると、お互い何を伝えあったらいいのか、よくわからない時間を過ごした。
- せっかく遠方の人参加して下さったが、具体的な様子など聞く時間がなかった。
- 質疑応答の時間が少なかった。

4. プログラム内容について、感想をお聞きます。どのプログラムが参加して良かったですか。

(複数回答可)

各団体の紹介	27
小グループでの交流	48
ワークショップ	29
パネルディスカッション	29
計	133

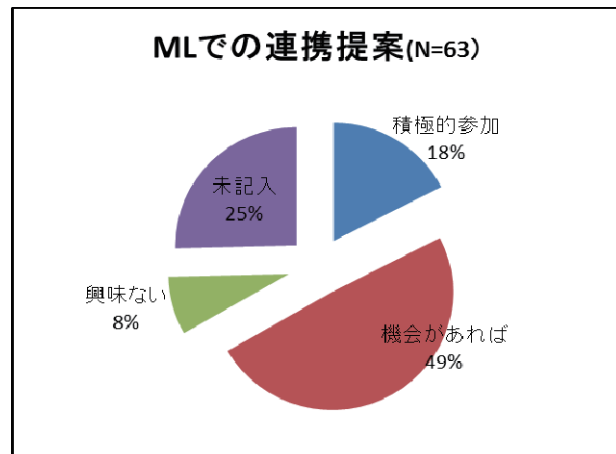


- **団体紹介・グループでの交流会:**
 - ・ 各団体の多様な活動の様子がわかってよかった。共通の悩みもわかった。
 - ・ 交流の内容の発表がなく残念、後日まとめがほしい。
 - ・ もっと表面だけでなく深い部分での話し合いがしたかった。
 - ・ 時間がなくあまりまとまった話し合いができなかった。
- **ワークショップ**
 - ・ 手軽なイラストはよいコミュニケーションの役立つ手段。ポイントがわかり楽しかった。
 - ・ 同会場で異種のワークショップは無理があった。環境配慮に欠けていた。
- **パネルディスカッション**
 - ・ 愛知のNPO化への熱意、四日市の派遣事業、訪問者の実際の声、コーディネートの苦勞など興味深く、話が深まった。
 - ・ なかなか変わらない問題はあるが、制度や規模の広がりもあり、少しでも進めていかなければ。

5. 今後のネットワーク作りに関する和音の提案:

全国の会話パートナーが任意に参加できるメーリングリスト(ML)を作り連携することに

積極的に参加したい	11
機会があれば参加したい	31
あまり興味がない	5
未記入	16
計	63



- この種的手段に慣れてないのでぼつぼつやりたい。
- 携帯やパソコンを持っていない会話パートナーも居るので、刊行物(年数回)とかでもいいかと思った。
ML にファイルで代表者に送り地域で印刷して配布する方法はどうか？
- メンバーが広がるとセキュリティや管理の問題がちょっと大変かなと思った。
- 個人情報があまり大切に扱われない不安がある。
- 背景がわからないと ML での連携はむずかしいのではないかな。
- ML の利点がよくわからない。
- ML による会話パートナーの連携はいいアイデアだと思うが、果たして活発な意見交換が展開されるかどうか疑問(私の加入している ML からの感想)。
- きっとひとつひとつのアイデアが何かに役立つと感じる。まずは情報の共有を。
- 活動報告など共有できると嬉しい。
- 情報交換を常にやる必要があると考える。

6. 本日のつどいの内容及び今後の会話パートナー活動や連携の展開に関してご意見やご感想があれば自由にご記入ください。

【前回との比較】

- 前回に比べて活動が深まり充実。この広がりを大きくしていかなければと思った。自分自身の活動は微々たるものだが、何とか広げていきたい。
- 5年前より社会への発信をやっていることを感じる事ができた。これからの方向性が示されていることもあり、明るい光(道筋が見える)感じがして、参加して良かったと思った。

【活動全般に関して】

- 今後ネットワークの情報を得ながら、自分達のところで地域や社会に向けてやって行けたらと思う。災害時の支援についても話し合う必要があるのではと思っている。
- 失語症者も人間なので個性が色々だが、現在自主グループやリハビリ、デイサービスといった位で居場所にバラエティがなさ過ぎる。訪問支援はその意味で求められる活動だと思う。
- 役所の手続きに同行というような事案になると何か間違いがあった時に会話パートナーの責任が重すぎる。手話通訳とは異なる会話パートナーの限界を感じる。
- 私の願いは会話パートナーまたはコミュニケーション支援を学んだ人が役所、銀行、病院、駅などに必ず居ること。理解のむずかしい人たちに優しい社会はどんな障害者にも優しい社会になるはず。
- サービスに結びつかない人に対し、どのように情報を伝えていくか、大きな課題だと思った。ケアマネージャーや民生委員、地域の町内会の力を借りることができればと思った。
- キーワード“楽しく”が支援する側にあることが、支えられる側にも届く。それが寄り添いのコミュニケーション。楽しく生き生き生活していく基になると思う。
- これだけ全国に会話パートナーがいるというので、もっと広がり、当たり前知られる存在になっていくのも遠くないと思った。
- 同じ気持ちで活動している人が全国に沢山いること、これからもっとこの活動が広がっていく有意義な活動であると実感できて大変よかった。
- 全国で様々な形で様々な方が失語症の人をサポートすることを考えている。全国的に一定の質を保ったこの活動が広がっていくといいと思う。
- 失語症の人が本当に求めていることは何かを掘り下げて考えてみたいと思った。
- 行政へつながる方法の good idea をほしい。

【会話パートナーの資質に関して】

- 会話パートナーはこれでよいのか評価(他からも自らも)を求めている。指導者や情報、地域の資源(自分の県にどんな団体があるのか等も)ほしい。
- 会話パートナーの専門性がさらに問われる規模になってきていると感じた。会話パートナーへの高次脳全般への情報提供の必要性が高まっているのでは。特に訪問では個別の個人への取組以上にはないと改めて感じた。コーディネート責任が大きい。
- 会話パートナーの人が「資格」ではないのでと言う人がいる。まず「実際の活動」ということでこれまでやってきた。「その次の段階」があるのか？他の例からはわからなかった。

【つどいの運営に関して】

- 参加者の幅が広いためディスカッションや学びたいことが分散したように思う。(たとえば組織をどう作っていくか、を考える人と、会話パートナーになったばかりでコミュニケーションをどうとつたらいいのかを考えている人と)テーマ別の分科会という形も今後とれるといいかと思う。
- どんなきっかけが知識につながるかわからないので、関連の本がもっと沢山あっても(展示)良いと思う。
- もっと知ってもらうのに「インターネット上の講座」とか設けてもいいのでは？ただのアイデアですが、これで会話パートナーになれるのは良くないと思いますが・・・。
- 集合写真をとりたかった。より短い間隔でまたつどいたい。
- 写真を見せてくれる失語症の人が居て、コミュニケーションの幅が広がっている。上手に使えるとコミュニケーションは広がると思うが、ガラケイ世代なので、わかりやすいアドバイスをもらえる機会があるとありがたい。”
- 行政担当者(情勢報告)、学識経験者(問題解説)の参加により、視点を考える
- 初めて参加したが、充実した内容であったと言う間に過ぎた。
- 特別なテーマ設定、役に立つ情報(法律など)も良いと思う。
- 講習会後の親睦会があればいいのにと考えた。

【実行委員会まとめ】

- 色々な団体との交流ができ、有意義な時間だったという意見が多かった、反面、もっと話を深めるために、交流時間の短さを指摘する意見も多かった。
- 失語症会話パートナーが全国に広がりを見せていることを心強く感じると同時に様々な課題も指摘された。
- 運営に関しては、充実した内容だったと感じるという意見が多かった。次の課題への提言も多く寄せられ、関心の高さ、問題意識の高さが示された。